

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		*	*	*
(九州)		一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・今年の夏は、開業して初めてのイベントになる。お盆シーズンに向けて、来客の動きが増加すると予想している。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・長梅雨の影響により、エアコンディショナーや冷蔵庫の売上が大きく落ち込んだものの、テレビ、洗濯機、パソコンの売上は、前年を上回っている。消費税引上げ前の駆け込み需要が強まっている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・消費税引上げがほぼ決まり、若干駆け込み需要が増えている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・今年度予算の見込みが、活発化している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比較すると需要があり、在庫がはけているが、長続きしないと予想している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・梅雨時の商戦ではあったが、今期は雨の日が少なかったこともあり、消費が低迷しており、何とか前年並みの売上を確保した厳しい状況である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・梅雨入りが遅く、今月中梅雨の状態であったため、客の不足は鈍い。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・土用の丑の日のウナギは、前年並みに確保ができた。販売をやめた店舗もあるが、前年並みの売上が維持できている。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	それ以外	・来客数や販売量等に変化はない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・豪雨の影響により、来客数が前年と比べ減少している。また、梅雨明けすると同時に暑い日が続き、日本茶販売としての条件は最悪である。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・当社が管理している施設の核店舗が撤退し、一部残留テナントが営業している状況である。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・ラグジュアリー商材の売上は、堅調に推移しているものの、クリアランス商材については7月に入り、動きが弱くなっている。よって、全体として景気が上がっていない状況である。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・クリアランスセールやダイレクトメール催事で来店促進をしている。観光客船での観光客は多いが、大雨による交通規制や営業時間短縮及び祭りの中止により、客の来店や購入意欲は落ち、特に平日の来店客数が減少している。店頭では、お中元ギフトセンター及びクリアランスの客数は大きく減少したが、一方、お中元通販ギフトやインターネット等の受注は伸びており、単価アップにより、落ち込んでいる分を若干補っている。
		百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・7月は、天候不順の影響を受け、中旬には大きく客足が減少し、販売も低迷している。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・大手資本のディスカウント店との競合により、価格競争でなかなか優位に立つことができず、来客数減少となっている。また、夏物商材が売れておらず、客単価の低下をもたらし、景気回復できる要素が少ない。
		スーパー（統括者）	お客様の様子	・食品メーカーの値上げは、少しずつ売価ヘシフトが進み始めているが、チラシ商品以外のついで買いが減少しており、客の生活防衛は強くなっている。
		コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・近くに競合店が2店舗あるため、期待できない。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・客数減少が続いており、その分を客単価で補っている状況が続いている。7月の気温がやや低く、体感温度が上がらないことで、アイスクリームの売行きが悪い。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客の様子に変化はない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来街者が少なく、来店客が少ない。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・梅雨明けが遅く、売上が見込める週末が豪雨で、来店客数が大幅に減少している。

衣料品専門店 (取締役)	お客様の様子	・7月は、街中でセールが開催されるが、今年の夏のセールは、凄く静かである。観光客等人的の動きはあるものの、買物している様子がなく、市民も含め購買意欲は少ない状況である。
家電量販店(店員)	販売量の動き	・長雨が原因で、やや悪くなっている。
家電量販店(広報・IR担当)	販売量の動き	・気候の影響により、エアコンディショナー等の夏物商材が大きく落ち込み厳しい状況である。一方、テレビ、洗濯機、パソコン等の大物商材は好調で、季節商材を除けば、前年超えて推移している。
乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・新車販売は、新型車効果により、消費税引上げ前の駆け込み需要を感じさせないほど、好調に推移している。
住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・天候不順の影響があり、今月は、店舗でもキャンペーンでも客足が低調である。
その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	販売量の動き	・前年との比較では、売上は横ばいで、購入単価も前年とほぼ同じである。
その他専門店 [ドラッグストア] (企画担当)	来客数の動き	・訪日外国人の需要が低迷している。
その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、若干上昇の傾向である。客は、ボーナスが支給され、カーケア商品の売上も好調であるが、前年並みである。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	販売量の動き	・施設の売上は好調に推移し、6～7月は前年比103%である。主な好調要因としては、カード施策スタートによる売上拡大と、映画業界全体のシネマ好調による集客拡大の好影響が大きい。また、サービス業は、安定して伸びており、施設単独としては、景気上向きである。一方、商圈全体の景気動向や近隣競合施設の状況からは、好転のインパクトがなく、景気が変わらない状況になっている。
都市型ホテル (販売担当)	単価の動き	・宿泊者は多いが、単価が余り上がらず、売上が伸びていない。
タクシー運転手	お客様の様子	・月初めは、タクシー利用が悪く、月末にかけてのイベントにより、売上を伸ばしている状態である。
観光名所(従業員)	来客数の動き	・若干前月と比較すると伸びてはいるが、梅雨時期ということもあり、目玉観光スポットであるボートが、ほぼ1か月の運休が続いている。そのため、その目的で来る客数が減少している。
美容室(経営者)	販売量の動き	・当店で販売している商品は、品物は良いが、高価格のイメージで需要がない。
設計事務所(所長)	単価の動き	・物品の単価や料金は上がっているが、収入が伴わず、3か月前からの悪い状況は変わらない。
商店街(代表者)	お客様の様子	・夏季ボーナスが出ている時期であるが、まとめ買いの客が減少している。
商店街(代表者)	販売量の動き	・当店の客層は年金生活者が多く、高額でない商品でも購入意欲がない。近隣のリサイクルショップは大勢の客でにぎわっており、少しでも安い商品を求めている。
商店街(代表者)	お客様の様子	・来店客数は変わらず、売上も上がっていない。暑くなった影響で、涼しいスーパーマーケットやコンビニエンスストアに客が流れている。特に、スーパーマーケットの夕方や夜のタイムサービスで、購入している状況である。
商店街(代表者)	来客数の動き	・ここ数年、来店客数が減少している。例年7月はボーナス商戦ということもあり、来客数や単価、販売量も増加していくが、今年は非常に厳しい状態である。特に参議院選挙や年金2000万円問題の影響で、財布のひもは固くなっている。
百貨店(営業担当)	来客数の動き	・中間層の消費が落ち込んでおり、衣料品等に大きな影響が出ている。それを富裕層と訪日外国人が支えていたが、6月以降、陰りが見えている。6月までの訪日外国人は、30%の伸びがあったが、7月は前年並みに落ち込んでいる。また、一部富裕層の美術関連の需要にも買い控えが出ている状況である。

百貨店（売場担当）	販売量の動き	・入店客数が前年を下回っているが、それ以上に売上が苦戦している。夏物クリアランスやギフト等が厳しい。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・客は、夏物お買得商品に興味を示さない。参議院選挙や消費税引上げに対する備えのため、ギフト需要も減り、支出に對してかなり慎重になっている。
百貨店（プロモーション担当）	販売量の動き	・韓国ウォン安に加え、日韓関係の雲行きも要因となり、インバウンド消費の伸び率が低下している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・梅雨入り、梅雨明けの天候状況に違いがあり、衣料品や身の回り品の動きが鈍い。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・梅雨入りや梅雨明けが遅く、月末まで気温も上がらないため、夏の定番である飲料水や冷たい麺類等の売行きが非常に悪い。また、豪雨の影響もあり、消費動向自体が沈滞している。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・梅雨明けが大幅に遅くなった影響で、夏物商材の売行きが大きく下がり、厳しい状況が続いている。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・単品の販売数の減少傾向や買上点数も微減になり、新発売商品に対する反応が低下している状況である。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・北部九州の梅雨明けが、例年より2週間遅れたことで、客数が減少している。
コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・7月に入り、競合店のリニューアルもあり、客数が伸び悩んでいる。加えて、チェーン店の電子マネーのトラブルにより、客離れが多くなっている。
衣料品専門店（総務担当）	それ以外	・商店街の衰退に加え、今月は天候不順も加わり、衣料品の売上に関しては、非常に厳しい状況である。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・梅雨明けの遅れにより、エアコンディショナー等の売行きが悪く、夏物商戦の盛り上がりには水を差している。残暑と消費税引上げ前の特需で活力を取り戻す。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・韓国のインバウンド売上が、大幅に減少傾向である。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数、予約数が減っている。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客が少なく、予約状況も芳しくない。ただ、客単価は落ちておらず、安価な客層が確実に減っている。
居酒屋（経営者）	来客数の動き	・韓国や香港の問題で、観光客が減少している。
その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・酒類業界としても消費量減少となり、飲食店への酒類売上は、前年比90%で推移している。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊施設数増加の影響で、販売数減少が顕著になっている。さらに、韓国人の宿泊者が大幅に減少しており、しばらく続く見込みである。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ホテル競合の激化もあり、客数が減少している。
タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー利用者は現状を維持できているが、訪日外国人が減少している。今まで不足していたホテル等宿泊施設は、充実し各種の大型イベントにもかなり対応できるようになっている。
タクシー運転手	それ以外	・消費税引上げ前の影響が出ており、また、日韓関係の悪化により、訪日外国人減少が、今後の動向の推移に影響するのではないかと心配している。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売数が落ち込む時期ではあるが、予想を上回っている。
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・7月前半の豪雨の影響で、平日利用しているシニアや土日のコンペのキャンセルが相次いでいる。また、当市からの道路の決壊による通行止めもあり、前年を下回る入場者となっている。
美容室（経営者）	販売量の動き	・例年お盆前は忙しいが、今月は客が少なく、2～3か月前と比較すると悪くなっており、美容業界が下火になっている状態である。
美容室（店長）	来客数の動き	・例年お盆に掛けて、来客数が増加するはずであるが、今年は減少している。

	設計事務所（代表）	来客数の動き	・来客数が減少している。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・暑い日が続いた事もあり、展示場とイベント来場共に前月比で1割ほど減少している。
x	商店街（代表者）	来客数の動き	・年度初めと比較すると消費が落ち着いている。お盆過ぎまでは、現状が続くと予想される。
x	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・7月は、この猛暑と豪雨による影響がかなり出ている。野菜の高騰や品質が落ち、その結果、客数が減少し、単価が上がらず、厳しくなっている。
x	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・売上の全店合計は、3か月前の前年比99.7%、今月の見通しは95.3%と1年を通して最低になっている。この原因は、冷夏や遅い梅雨明け、台風が影響しており、衣料品が9割以下に押し下げている。
x	スーパー（店長）	お客様の様子	・今月は雨が多く、生鮮食品の内、特に青果の相場が上がっており、前月に比べ2%来店客数が減少している。天候でかなり左右され、夏の商材、特に青果、温かい飲料の売行きが悪い状況である。
x	スーパー（店長）	販売量の動き	・7月に入り、梅雨が長引いた影響で、青果や衣料品の売上が苦戦している。
x	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・梅雨明けの遅れから、来店客数が減少している。
x	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は、参議院選挙があり、企業が選挙運動に動くため、来店客が減少する。選挙後も予約が入らず、売上が厳しい月になっている。
x	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・8月からの燃油アップによる収益圧迫や日韓問題での渡韓者の減少が見え始めている。全体的に夏の動きが鈍く、直近の予約が伸びていない。
企業 動向 関連 (九州)	-	-	-
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・8月に前倒しの受注が入るため、来月に関してはフル稼働の予定である。
	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・車載関連や駐車場管理等の自社営業関連、海外販売等では、引き続き好調を維持している。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注が増加し、受注も多くなっている。民間工事の見積依頼も多く、厳選できる状態であるにもかかわらず、作業員の不足気味に危惧している。
	通信業（職員）	それ以外	・見積りの引き合いが増えており、受注が見込める案件もあり、景気は上向く。
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・6月は、梅雨により全般的に消費が伸びない時期であるが、今年は梅雨明けが遅く、スーパーマーケットの売上が、計画比3～4%のマイナスで終わりそうである。居酒屋や外食は、計画どおりであるが、大手冷凍食品メーカー向けの納品は、かなり厳しい結果となっている。原因は、供給過剰にあると考えられる。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・7月の受注額、粗利共に3か月前との比較では、通年指数に近い数字で推移している。小売は、季節指数どおりの80%程度となり、コントラクト家具は前年比で103%となっている。まだ米中貿易摩擦や日韓問題等も解決の糸口すら見えず、今後の不安材料が、IT関係以外に波及することを危惧している。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税引上げ前の影響もあり、荷主から倉庫保管スペースについての問合せがあるものの、実際にはなかなか商品が入らない状況である。軽減税率が適用される食品の原料については、問合せはなく増加していない。コピー用紙や家庭紙等は、若干多くなっている傾向である。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・冷夏の影響により、エアコン等の夏物商材の出荷が芳しくなく、在庫があふれ倉庫スペースを圧迫している。そのような季節要因を除けば、特に消費が落ち込んでいる状況ではない。
	通信業（経理担当）	取引先の様子	・改元等の年度当初の慌ただしさが一段落したため、景気は変わらない。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店やスーパーマーケットの売上は、やや鈍化しており、住宅販売では、低金利が続いているもののマンション中心に伸び悩んでいる。一方、雇用面では人手不足が続き、雇用者数は増加している。

	金融業（営業担当）	取引先の様子	・住宅関係は、消費税引上げが確実にされており、住宅購入の動きが鈍化している。前年と比較すると売上高の見通しは立たず、1年前と比較すると大幅に売上の進捗が鈍化している。景気全体では大幅には変わっていない。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・今月中旬までは天候不順が続いたが、夏休みシーズンに入り、各種イベントが開催されていることから、宿泊関連は活況を呈している。自動車ディーラーでは、消費税引上げを意識した相談が増加しており、また、家電量販店は、エアコンディショナーの引き合いが活発で、工事が追い付かない状況である。
	金融業（調査担当）	それ以外	・融資残高の伸長率は、プラスで推移しており、中小企業向けが増加している。大・中堅企業はほぼ横ばいである。ただし、不動産業向けは減少しており、融資利回りは1%程度で、ほぼ横ばいである。総じて地方企業の資金需要は、引き続き一定の水準を堅持しており、3か月前に比べ大きな変化はないと考えている。
	新聞社〔広告〕（担当者）	取引先の様子	・参議院選挙関連の選挙広告出稿があったものの、他業種の出稿状況が低調である。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先との商談では、業況に大きな変化はない。
	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・毎月の連絡会議や周囲でも新しい動きが見られない。
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・ビール・日本酒・焼酎・ワインにおいて、低価格帯を求める傾向にあり、売上高減少や利益減少の原因になっている。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・第1四半期も終わり、取引先の売上利益は、安定した推移である。金融機関は、金利収益が見込めないため、手数料収入の意欲が高く、情報も金銭に変えて提供している。また、AIが徐々に浸透しており、運送会社にもAIを活用した運行管理の提案がある。現在は、初期投資費用が高いが、5年後には価格も下がり、浸透する可能性がある。
	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・今年度は、子ども・子育て支援事業計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定年度であるため、市町から指名競争入札が行われている。応札する業者の価格競争は激しく、予算の4～5割の価格で入札している業者が多く、他に業務委託が少ないこともあり、受注できない業者も多い。このため、調査や計画策定を行うコンサルタントは、景気が悪い。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節商材が端境期のため、販売、製造共に厳しい時期を迎えている。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・産地全体で、受注関係が悪化しているため、ふだんより週休を長くしている企業もあり、厳しい状況になっている。
	金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・中国向け案件の投資について、米中貿易摩擦の影響が顕著になっている。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の主体が輸出に片寄っているため、米中貿易問題の影響をもろに受けている。
	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・米中貿易摩擦や韓国との問題もあり、生産性が上がらない状況である。相場も停滞しており、見通しの悪さを懸念している。
	輸送業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・高価格の化粧品は好調であるが、低価格、汎用品の受注数が明らかに減少している。
	金融業（営業）	取引先の様子	・製造業の多くは、前年比べて受注量減少の傾向が強い。米中貿易摩擦による中国の景気減速が大きな要素である。
	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の合併により、賃金の上昇分を工賃に加えることが難しい状態である。工賃の値上げができないまま、最低賃金はハイペースで上がり、残業がないために生産性は悪くなっている。その上、ものづくり支援資金の申請も通らず、苦しい状態である。
雇用関連	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月平均の求人数と比較し、求人数が110%と増加傾向である。

(九州)	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・人手不足が、依然として続いている。当社へ派遣登録の予約をしても、仕事が決まったことによるキャンセルが多い。直接雇用の求人も多いので、求職者は選べる状態であるが、一般事務に関しては、競争率も高い。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・長期派遣求人については、前年に比べ減少している状況である。新規発生の求人というより、退職に伴う交代が多い。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・婚礼司会者の請負を行っているが、件数が減少している。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人件数は、前年度とほぼ変わらずに推移しており、下げ止まりの傾向は続いている。採用もこれまでより、良くなっている。
	新聞社[求人 広告](担当者)	それ以外	・中心市街地の飲食店は予約で満席状態であり、郊外のショッピングセンターでは増床リニューアルを行うといった消費動向の活発さを感じさせ、景気の良さが続いている。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・求人数は、前年比で若干の減少がみられるが、有効求人倍率は、引き続き高い水準で推移している。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・求人数が9か月連続で前年比マイナスが続いており、今後の動向を十分に注視する状況である。
	学校[大学] (就職支援業 務)	求人数の動き	・2020年卒業採用の実施状況は、前年より活動比率が低い。求人受理件数も前年度より少ない。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・一部異動等の人員配置により求人数が動いているが、繁忙増員等の募集理由も余りなく、求人数が落ち着いている。
	新聞社[求人 広告](担当者)	周辺企業の様子	・企業の早期退職募集等もあり、雇用の不安もある。人手不足は解消できず、業種や業界によっては、浮き沈みが多い。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・前年比では、新規求人数が減少傾向となり、有効求人倍率が下落している。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・4月以降受理求人数が、前年比で減少を続けており、特に大口の求人が減っている。求職者も微減状況であるため、採用が困難である状況に変化はない。
	x	-	-